

南アルプス市過疎地域自立促進計画(素案)に対する パブリックコメント手続実施結果

パブリックコメント手続を実施した南アルプス市過疎地域自立促進計画(素案)につきましては、市民の皆様から貴重なご意見をいただきありがとうございました。お寄せいただいたご意見の概要と市の考え方を以下のとおり公表します。

1 意見募集期間 平成27年10月5日(月)～平成27年11月3日(火)

2 意見提出件数 3件

3 問合せ先 南アルプス市役所 政策推進課 行政運営・統計担当 電話 055-282-6073

4 ご意見の概要と市の考え方

No.	意見の概要	市の考え方
1	芦安地区も含めた市内の観光ルートを構築し、積極的にPR等の情報発信を行うことで観光を活性化させるべきである。	観光振興については、地域資源の活用を中心に進めていきます。特に、ユネスコエコパークの観光資源としての利活用については、「2 産業の振興」に位置づけて推進していきます。
2	<p>① 地域産業の振興は、従来どおりの行政主導ではなく、地域の中で情熱を持った人材が主導して進めるべきである。行政は、そうした担い手の支援に専念するべきである。</p> <p>② 芦安地区は市内を通る国道まで車で10分程度の距離であるため、まずは遠く不便な場所というイメージを払拭する必要がある。その上で、子育て環境の整備、用地の確保等にまで係った住宅取得への支援、行政が仲介役となった古民家の貸与や売買、地域内での企業を支援するといった雇用対策など、移住者に選ばれるような対策を講じるべきである。</p>	<p>地域の活性化に意欲のある人材や団体に対する支援については「10 その他地域の自立促進に関し必要な事項」の中の「地域づくり支援及び研究事業」において実施していきます。また、取り組み内容について、より具体的な記載をしていくことを検討いたします。</p> <p>住みよい環境を整え、定住者の増加を図ることはとても重要であると考えています。本市としては、芦安地区のみならず全市的にこうした取り組みを進めていきます。具体的には、10月に策定された「南アルプス市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中に主要な施策として盛り込み、ご意見にもあるような定住促進策を推進していきます。</p>

<p>3</p>	<p>① これまでは山岳観光(通過型観光)を重視してきたが、人口の減少は進み、新規雇用には全く寄与していないという現実を認識するべきである。また、第三次産業の就業人口は過去の事業の成果を見る上で重要なバロメーターとなるため、減少しているということを、誤解のないように絶対数で記述するべきである。</p> <p>② P.11 表1-2(1)では合併前後の芦安地区の財政状況の変化は読み取れない。また、合併後、過疎対策事業費や過疎債は低減しており、芦安地区に対する投資が減少している様子が伺える。</p> <p>③ 市という枠に捕らわれず、甲府市や韮崎市との連結など、市外からの交通の便を勘案して見直していくべきではないか。</p>	<p>山岳観光の推進により、観光客の誘致や宿泊施設等の利用促進など、一定の効果はあったと考えていますが、ご指摘のとおり実際には人口減少は続いているというのが現状です。計画には、こうした状況を踏まえた上で、従来より取り組んでいる事業に加えて地域の課題に対応した新たな事業を盛り込み、改善を図っていきます。なお、第三次産業の就業人口に関する記述は、昭和35年と平成22年の比較のみを記載しているため、直近の状況についても追加していきます。</p> <p>P.11 表1-2(1)は、国より示された計画策定の規定に、掲載が義務付けられている資料になります。南アルプス市への合併後は、市全体として行財政運営を行っているため、芦安地区のみの収支状況を正確にお示しすることはできません。そのため、市全体の財政状況を掲載しています。</p> <p>過疎対策事業は、各年度で過疎地域自立促進計画に基づき実施されてきました。その時々で地域にとって必要性の高い事業を実施しており、旧芦安村時代より継続して地域の活性化に取り組んできたと認識しております。また、年度ごとに事業規模や内容が異なっており、合併特例債など他の財源を活用している場合もあります。今回策定していく計画には、従来計画以上に過疎対策事業を盛り込み、各事業を積極的に推進していきますので、ご理解をお願いします。</p> <p>公共交通の充実については、現在運行しているコミュニティバスの利用状況等を踏まえて検討していきます。</p>
----------	--	--

④ 光回線等の高速インターネット回線を整備していくべきである。空き家活用や特産品の通信販売などにおいて重要なインフラとなり得ると思う。

現在、民間事業者によりインターネット回線が整備されています。通信環境の充実については、必要性や公平性等を判断した上で実施を検討していくため、今回は計画への記載は控えさせていただき、実施の方針となりましたら計画内容の変更を行い、盛り込んでいきます。

⑤ 鳥獣害対策は大きな課題であるが、これまでもできる範囲で対策を講じてきたが効果は見られない。間伐の需要を起すバイオマス発電や森林空間の活用等踏み込んだ対策が必要である。

鳥獣害対策については、「2 産業の振興」に位置づけて取り組んでいきます。具体的には、防止柵等の資材購入費補助や狩猟団体への支援になります。現状としてはバイオマス発電や森林空間の利用などに取り組んでいく予定はありませんが、各対策を実施していく中でこうした取り組みの必要性や有効性を判断した上で検討していきます。今回は計画への記載は控えさせていただきますが、実施の方針となりましたら計画内容の変更を行い、盛り込んでいきます。

⑥ 本計画の中心的な課題であるが、U.I.J ターンの入居や交流人口の増加についての記述はあるが、具体策はなく実現への道筋が見えない。

定住者の増加については、「9 集落の整備」に記載した空き家バンク制度の推進や「10 その他地域の自立促進に関し必要な事項」に記載した通勤費助成事業、住宅や事業所の建設費用に対する利子補給事業など、他の施策分野における取り組みと一体的に進めていきます。

⑦ 芦安将来構想の理念を取り入れたと記述してあるが、アウトプットである計画と将来構想との整合性が見えない。

芦安将来構想は、住民へのアンケートや現地調査、ワークショップにより、地域課題や望むべき将来像についてまとめたものです。本計画は、そうした課題や理想的な地域のあり方を、関連する各分野に採り入れて策定しました。また、将来構想では住民による地域活性化のアイデアが提言されていますが、今年度よりワークショップの参加者を中心にそれらの具体化に向けて活動を進めています。